

上水道施設管路等管理業務特記仕様書

(目 的)

第1条 本仕様書は、業務委託一般仕様書（上水道施設維持管理業務）（以下「仕様書」という。）第27条に係る管路等管理業務（以下「本業務」という。）について必要な事項を定めることにより、業務の円滑な遂行を図ることを目的とする。

(施設の概要)

第2条 施設の概要は「別紙：水道施設の概要」を参考とする。

(管路施設保守点検)

第3条 本業務は仕様書第27条に係る、管路パトロール・弁室等点検業務・水管橋・構造物の点検について定めるものとする。業務の実施にあたり、「弁・マンホール点検記録（仮称）」、「水管橋点検報告書（仮称）」、「構造物点検報告書（仮称）」を仕様書第39条に基づき作成し監督員に報告する。なお、作成に当たり水道施設維持管理業務委託積算要領（管路等管理業務個別委託編）日本水道協会発行の参考資料3・点検記録表（例）を参考とする。異常等、特筆すべき内容があれば「上水設備点検報告書（仮称）」を仕様書第39条に基づき作成し監督員に報告する。

2 本業務により「上水設備点検報告書（仮称）」にて報告された内容により、仕様書第26条第3号に基づき簡易な修繕等を実施する。実施した内容については、「上水道設備作業報告書（仮称）」を仕様書第39条に基づき作成し、監督員に提出する。なお、他業者（専門業者等）による調整が必要と認められるもの、監督員から別の指示があるものについては、仕様書第26条第3号に基づく簡易な修繕等は実施しない。また、「上水設備点検報告書（仮称）」にて報告した内容により仕様書第26条第3号に基づき簡易な修繕等を実施するにあたり部品・消耗品等が必要な場合は、仕様書第39条に基づき「手配依頼書（仮称）」を作成し監督員に提出する。

3 前項に係る部品・消耗品等については、発注者の負担とするが、カメラ、工具類、安全対策器具を含む備消耗品については、受注者の負担とする。

4 本業務に係る各種内容は以下のとおりとする。

対象範囲は、新宮系送水ルート、上郡系送水ルート並びに播磨科学公園都市内送・配水ルートとする。

なお、管路パトロールの播磨科学公園都市内送・配水ルートは、別紙「管路パトロールルート図」のとおりとする。また、点検箇所数については、「上水道施設維持管理業務特記仕様書」別添の「水道施設の概要」に基づくものとする。

(1) 管路パトロール

1) 基幹管路

「上水道施設維持管理業務特記仕様書」等に記載する業務においての車両移動時を含む1年に4度以上、パトロール車内からの目視及び必要な場合は徒歩により実施する。なお、新宮系送水ルートについては、一般管路として実施する。巡視項目については表-1のとおりとする。

2) 一般管路

「上水道施設維持管理業務特記仕様書」等に記載する業務においての車両移動時を含む1年に2

度以上、パトロール車内からの目視及び必要な場合は徒歩により実施する。巡視項目については表-1 のとおりとする。

表-1 巡視項目

項 目
路線の調査（漏水の有無、道路陥没等の確認）
鉄蓋の状況確認（ズレ、ガタツキ、腐食、段差、摩耗、破損等）
水道用地の状況確認（水道用地への不法投棄、不法占用、フェンス、植物の繁茂等）
管路近接工事等の確認（管路等水道施設に影響を及ぼすおそれのある工事等の有無）

（２）弁室等点検業務

契約期間中、定期的に４年に１度点検するように受注者にて配分し、業務履行計画書並びに年間業務計画書に予定箇所を記載する。点検方法については、以下のとおり目視点検を実施する。

なお、弁周囲並びに弁室内の状況により、路面との高さ調整並びに滞留水、土砂等の排出作業を必要とする場合、その対応については監督員と協議する。

１）鉄蓋の状況

外面状況（腐食、摩耗、破損等）、開閉操作性、ガタつき、舗装面との段差、周囲のクラック等、受枠等の清掃、その他必要とする事項

２）弁室・弁きょう内等の状況

滞留水、流入水の有無、土砂による操作箇所の埋没、破損の状況、漏水の有無、滞留水・土砂等の排出、その他必要とする事項

３）弁操作の状況

弁棒と弁室のずれ、消火栓口金等の破損、その他必要とする事項

（３）水管橋点検業務

契約期間中、水管橋点検については定期的に２年に１度点検するように受注者にて配分し、業務履行計画書並びに年間業務計画書に予定を記載する。

１）管体

破損、腐食、塗装の状況、漏水の有無等

２）付属設備（空気弁、補修弁、伸縮継手、支持金物、橋台、橋脚、歩廊、侵入防護柵等）

破損、腐食、塗装の状況、漏水の有無、支持しているコンクリート部の破損、水道用地の状況確認等

３）水管橋の点検に危険を有する箇所については、監督員と協議の上、双眼鏡等を用い安全な場所での確認を実施する。（特に足場や特殊な装置・機械器具を使用しない。）

（４）構造物点検業務

契約期間中、構造物点検については定期的に１年に１度点検できるよう受注者にて配分し、業務履行計画書並びに年間業務計画書に予定を記載する。

１）対象施設

①新宮系送水ルート 曾我井水源地、新宮新水源地、新宮第１中継ポンプ場、新宮第２中継ポンプ場、調整池

②上郡系送水ルート 川向水源地、上郡第１中継ポンプ場、域内中継ポンプ場

③配水池 第1配水池、第2配水池、第3配水池

④昇降口 揖保川右岸ゲート室

2) 構造物の点検方法については、以下のとおりの目視点検を実施する。なお、傾斜が強い屋根部がある構造物の屋根部については、安全のため監督員と協議のうえ省略することが出来る。

点検にあたり特筆すべき内容がある場合は、「上水設備点検報告書（仮称）」に記入の上、その都度監督員に報告する。

①構造物・外周の目視点検

劣化・異常の有無

②水槽内部の目視点検（入槽せず点検口からの確認とする）

水槽内部の異常の有無、堆積物の有無。

③取水井の目視点検（曾我井水源・新宮新水源・川向水源）

水槽内点検（確認できる範囲）

④昇降口の目視点検

昇降口内点検、水位測定（1年に2度）、滞留水の排出作業補助（別途発注者の指示による）

⑤各マンホール内滞留水等の排出、パッキン等部品交換

（疑義）

第4条 本特記仕様書に疑義が生じた場合又は、定めのない事項が生じた場合は、発注者、受注者協議の上定めるものとする。

（雑則）

第5条 本特記仕様書に明記されていない事項であっても、維持管理上当然必要な業務等は、良識ある判断に基づいて行わなければならない。

2 当該業務にかかわる資料の提出を、発注者が要求した場合は、速やかに応じなければならない。